

こども家庭センターだより

あした

明日もしあわせ通信 (第85号) 令和5年7月号

三つ子の魂百まで

今年3月に開催されたWBC第5回大会において、泥にまみれたユニフォームで投打に大活躍をする大谷翔平選手を見ていて、私はふと疑問を抱きました。野球が上手くなるために全てを捧げているような、大谷選手の原点はいったいどこにあるのだろうか。

それはおそらく、小学2年生で野球を始めた大谷少年を、指導者として教えた父親の徹(とおる)さんが、繰り返し伝えた3つの教えではないでしょうか。

一つ目は「一生懸命元気に声を出しなさい。」

二つ目は「一生懸命キャッチボールを練習しなさい。」

三つ目は「一生懸命走りなさい。」

『三つ子の魂百まで』とは、「幼いころ、子ども時代に得た性格は一生変わらない。」という意味ですが、大谷少年は父親の思いを込めたこの3つの基本的な教えを忠実に守り、誰よりも一生懸命に練習し、その結果として現在世界一のプレーヤーと呼ばれるまでの選手になったのです。

子どもたちのスポーツなどを教える指導者の方には、基本が大切であることと、それを継続することが大切であることを、ぜひとも教えていただきたいと思います。

大谷選手には、2023年もケガなく、シーズンを通じて投打二刀流で活躍してくれることを期待しながら、「ことわざシリーズ⑩」でした。(E・F)



教育支援教室「はばたき」 ～心に余裕をもって～

はばたき教室では毎年野菜づくりを行っています。外部の土地を利用させていただいたりプランターを利用したりして、できるだけ子どもたちの手で植え付けから世話・収穫までを行うよう支援しています。自分たちが植えた野菜が少しずつ成長し、花を咲かせて結実し、食べられるようになっていく過程を見るのはとても楽しみなことです。特に、食べられるようになるまでの地道な世話が作物にとっては大変重要であり、作物の様子に注意して世話をしていくことの大切さを身をもって体得していくことが重要であると思います。



<キュウリの苗>

今までの子どもたちの様子を思い返してみると、親身になって野菜の世話ができるようになるためには、どうも子どもたちの心に余裕がなければできないように思います。教室に通うことで少しずつ心に余裕を持つようになり、野菜にも優しいまなざしを注げるようになってほしいと思います。

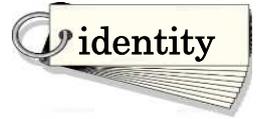
余裕ができるにつれて進んで野菜の世話ができるようになり、少しでも心にゆとりを持ちながら元気を取り戻していくように応援しています。(M・S)

カムカムエヴリバディ

最近は小学校3年生から英語教育が始まるらしい。“This is a pen.” で始まった私の英語学習は、社会人になってからも、時折思い出したように再燃しては頓挫する。受験英語はクイズみたいでそれなりに面白かったが、英会話となると緘黙。最後には(日常生活では英会話は不要だし…)と開き直る。

確かにこれまでの私の人生の中で、外国人から英語で話しかけられたのは1度切りである。道後温泉界隈を歩いていたら外国人からホテルへの道を聞かれたので答えた。

この数秒の会話によって私の数十年に及ぶ英語学習の努力は結実した(のか?)



一方、日常では英語が溢れている。テレビから流れてくる音楽の歌詞は日本語と英語が混在し、耳で聞いただけでは分からない。新聞・雑誌では日本語化する努力を放棄し、読みをカタカナ表記にただけで記事を書き散らす。

が、技術の進歩は素晴らしい。YouTubeには外国発の動画が溢れているが、自動翻訳した字幕が流れる。対面で会話するにも、今やスマホの翻訳アプリは自分の怪しげな英語よりよほどの確に翻訳し、かつ喋ってくれる。一般人の私にはこれで十分。誰もが外交官や学者になるわけではない。

国語は日本人の根幹である。初等教育は国語力を育む大事な時期である。英語教育の推進に反対はしないが、この時期にはもっともっと国語力の向上に注力してほしいと願っている。(T. K)

《おおぞら通信》

子どもの居場所「おおぞら」オープン

かねてよりお知らせしておりましたとおり、6月1日(木)に、子どもの居場所「おおぞら」を開設し、運営しています。

「おおぞら」は不登校やひきこもりなど、家庭から出ることができない、市内の小中学生を対象に、まず家から一歩踏み出す「場」を提供するものです。



平日の正午から午後8時まで利用することができ、活動は読書や学習、草花の世話、運動など、やりたいことを優先し、職員がそれをサポートいたします。

「おおぞら」では、家庭にひきこもっている子どもが、一人でも二人でも気軽に利用し、落ち着いた環境で、自分のやりたいことを見つけ、それに打ち込むことで学校や社会につながれるよう支援していきます。

お子様の不登校やひきこもりで、困ったり、悩んだりしている保護者の皆様、まずはお電話でのご相談をお待ちしています。

(☎ 989-5014)

巡回発達相談

この夏、お口の経験を…

4・5・6月の巡回で、「ことばの教室」の先生に診てもらい、その後「ことばの教室」に通うようになった子が例年に比べて大変多くなっていることをお聞きしました。主に年長対象なのですが、発音が不明瞭、言えない構音がある、会話が上手にできない、など心配な点は様々です。

やはり、コロナ禍でお口の経験が乏しくなってきた影響が出てきたのではないかと危惧しています。



食事の時によく噛む、吹いたり、吸ったりする、など意識してできるように、硬いものを食事やおやつに用意する。熱いものは自分でフーフーする。など工夫して普段にお口を鍛えてあげるといいですね。

「パ・タ・カ・ラ」「あ・い・う・べー」などお口の体操も楽しいです。

マスクが個人の判断になりました。お家の中や戸外の自然の中などではマスクを外して楽しくおしゃべりしたいですね。夏はいろいろな体験をしておもいきり大きな声を出して楽しい思い出を作してほしいと思います。

また、顔を見合わせてお子さんと会話をする際は、大人が意識して口の動きを大きくして見本を見せてあげたいですね。

お家でできることを、この夏お子さんと楽しみながら試してみてください。ぐっと伸びるのと間違いなしです。(A)



伊予市子ども家庭センター

伊予市総合保健福祉センター2階

伊予市尾崎3-1 ☎989-6226

携帯 080-2974-4580

